

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4098000013
法人名	医療法人 博愛会
事業所名	グループホーム まごころ
所在地 (電話番号)	福岡県京都郡苅田町大字提字唐松2781番地 (電話) 093 - 434 - 6666

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年2月29日	評価確定日	平成20年4月9日

【情報提供票より】(平成20年1月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)9,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(4年償却)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,300円				

(4) 利用者の概要(1月14日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2		3名	
要介護3	0名	要介護4		1名	
要介護5	0名	要支援2		1名	
年齢	平均 79歳	最低	61歳	最高	86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小波瀬病院 / 行橋記念病院 / 桑原医院 / 中村歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「真心」を込めたサービスで笑顔こぼれる温かいホームを目指して、昨年4月に開設したグループホームである。開設時、職員全員で意見を出し合い「優しい心を大切に温かい家族になります」「穏やかでゆっくりとした日々を共に歩みます」を理念として掲げている。管理者・職員が一丸となってケアの目標を高く掲げ、日々のケアに取り組んでいる。入居者の安心した暮らしを支えるケアに努め、入居者の会話がはずむ、温かい家庭の雰囲気大切にしている。グループホームまごころは、同法人が運営する介護老人保健施設と共に高台の同じ敷地内にあり、日当たりが良く眺望に優れた環境を有している。高台に位置しているため、近隣の方との関係づくりが難しい状況にあるが、ボランティアの方を積極的に受け入れたり、運営推進委員に「介護を考える会」の代表に参加してもらうなど、地域との連携づくりに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	開設1年目で初めての外部評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の重要性を職員に説明し、職員全員が自己評価を記入した。評価内容を職員全員で話し合い、改善すべきことなどを検討し改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進委員は社会福祉協議会事務局長・介護を考える会代表・地域包括支援センター職員・社会福祉士・民生委員・区長で構成され、2ヶ月に1回定期的に開催している。会議では、毎回テーマを絞って話し合いを行い、貴重な意見をいただき改善に努めている。これまで4月開設のため、運営推進会議は4回開催しており、毎回、貴重な意見を聞く大きな機会となっている。今後は、更に会議の機会を活かし、意見交換を行いながら、サービスの質の向上を図っていきたいと考えている。今回の評価内容も運営推進会議で報告し、改善点などを話し合い取り組むようにしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居者の日々の様子や健康状態・預かり金の収支などについては文書で知らせている。また、面会時には必ず、入居者の様子を説明している。家族会や運営推進会議を通じて、家族の意見や苦情を吸い上げていきたいと考えている。また、家族からの苦情などを文書で受け取ることも今後の課題として検討していきたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敷地が高台にあるため近所の方と顔を合わせる機会が少ないが、散歩の時は挨拶を交わすようにしている。子ども会の資源回収や高齢者を対象とする行事などについては、地域の受け入れの理解が取れた時は参加するようにしている。来年度からは運営推進委員の協力を得て、グループホームの敷地を利用して、地域と合同で盆踊りなどの行事を行い、地域との連携を高めることを進めている。また、ボランティアを積極的に受け入れ、数名の方が定期的に関わっていただく関係を築いている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員で意見を出し合い、「利用者本位・寄り添う介護・地域との連携」などの思いや意見を「温かい家族になる」と言う言葉に集約し、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲げている。「家族になる」というキーワードを忘れないように周知徹底し、穏やかでゆっくりとした日々を共に歩み、密度の濃い人間関係を築くことで入居者の自立を支援できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子供会の資源回収や高齢者を対象とした行事などには、地域の了解がとれた時は参加している。グループホームについて、地域の理解を得られるように取り組んでおり、来年度から、地域の盆踊りをグループホームの敷地を利用していただくなど進めている。現在、地域との連携を高める努力を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の重要性を職員に説明し、職員全員で自己評価を記入した。評価内容を職員全員で話し合い、改善すべきことなどを検討し改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催している。毎回テーマを絞って話し合いを行い、貴重な意見をいただき改善に努めている。毎回、運営推進会議は貴重な意見を聞く大きな機会となっており、今後は更に会議の機会を活かし、サービスの質の向上を図っていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険制度に関して、判断に困った時などには気軽に相談できる関係にある。窓口を訪ねた際にも、情報交換など気軽に話ができる関係づくりができています。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	法人内での勉強会や社会福祉協議会での研修会に参加している。また、入居時に入居者や家族に権利擁護事業・成年後見制度についてパンフレットを渡し説明している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日の生活の様子や健康状態については、面会時や月に1度文書で報告している。面会時には、できるだけ家族とのコミュニケーションを図るように努めている。職員の異動については随時文書で報告している。預かり金の収支報告は年度末に報告予定である。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族が気軽に意見や苦情を言っていたけようにコミュニケーションを図るように努めている。今後は運営推進会議などの機会を活かし、できるだけ多くの家族の参加を働きかけ、意見や苦情が言える場として活かしていくなど検討が望まれる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	7人の職員のうち6人が1年間の契約社員のため、入居者と職員がなじみの関係を築いた段階での離職などが懸念される。今後は、入居者のダメージを防ぐ配慮が課題となっている。		法人が複数の事業を展開している場合には、人事異動などが考えられ、その場合には、異動時期を集中させ一気に動くのではなく、徐々に入居者との人間関係に慣れていくなどスムーズにバトンタッチする助走期間のようなものを設ける必要がある。関係性の変化による入居者のダメージを防ぐ取り組みが必要である。
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用条件は特になく、法人代表者と管理者が合同で面接し、理念にそった介護ができる方を採用している。7人の介護職員のうち6人が1年ごとの契約社員という状況をふまえ、人材が定着できる職場づくりが求められる。職員のスキルアップの研修は行っている。		グループホームでは、職員と入居者のなじみの関係に配慮し、家族との信頼関係を築いていくことが求められる。職員が定着できる職場づくりや能力に応じた適切な配置など働きやすい条件や環境の検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	苅田町の社会福祉協議会が開催する研修会に参加している。内部研修も行われ、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	併設している介護老人保健施設と合同で2ヶ月に1回勉強会を開催している。月に1回ミーティングを行い職員のスキルアップに努めている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	京築地区のグループホーム連絡協議会に加入し、同業者間の情報交換に努め、サービスの質の向上に努めている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	見学に来られて、説明を聞き納得して入居される方が多いが、中には1週間ほど毎日遊びに来て、その後、昼間はグループホームで生活し、夜間のみ自宅に帰る生活を8日間継続して入居された入居者もいる。入居者が安心して、納得して入居されることを支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々家族として役割を担っていただき、毎朝の掃除など職員と協働しながら和やかに生活できるように支援している。また、菜園があり、野菜の収穫・草取り・水やりなどは、大先輩である入居者と相談しながら行っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の趣味である読書や畑の草むしりなど入居者の希望や好きなこと、就寝時間などは自由にいただいている。入居者の思いや意向の把握については記録や申し送りで情報を共有し支援できるように取り組んでいる。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や家族の思いや意見を把握しながら、介護計画を作成しているが、入居者・家族・職員の意向を十分に反映した介護計画の作成には至っていないので、アセスメント方式に一部センター方式を活用する方向で取り組んでいる。介護計画に関して更に本人や家族と話し合う機会を定期的なようにしたいと考えている。</p>		<p>ケースカンファレンスをもとに、家族・入居者と共に介護計画について話し合う機会を設けることが望まれる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居期間がまだ短い方が多く、見直しの段階までには至っていない。状態が変化した時、短期目標期間の終了時、介護度変更時などに見直しを行っている。今後は状態変化なども視野に入れ、柔軟な見直しが求められる。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>同法人が運営する同一敷地内にある、デイサービスセンターの行事に参加したり、介護老人保健施設の大きな風呂に希望に応じて利用できるなど、法人のスケールメリットを活かした多様な取り組みを行っている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者・家族が希望する医療機関をかかりつけ医として利用していただいている。また、協力医療機関が数箇所あり、その中でも個人医院の主治医が相談や往診など柔軟に対応していただき、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	看護師の配置がないこと、入浴設備が身体的に重度の入居者に対応できないことなどで、重度化や終末期までの体制が整っていないことを入居時に家族に説明している。今後は、家族や入居者の意向をふまえ、対応を検討してほしい。		入居者や家族の意向をふまえ、グループホームとして、対応できる最大の支援方針の検討が求められる。また、同法人内の介護老人保険施設や医療機関など関係機関と話し合い、ターミナルケアへの取り組みを期待したい。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	個人の記録は施錠のできる所に保管している。言葉かけについては、入居者に違和感がないように、親しすぎてプライバシーを損ねないように入居者の意向にそって「さん」付けで呼んだり、なじみの呼び名で呼ぶなど配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な1日の流れはあるが強制はしていない。就寝時間は自由にさせていただき、朝は朝食前に声をかけるが強制はしていない。入居者のペースにそった暮らしができるように取り組んでいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事の好みについては入居前に必ず尋ね、日常の会話や食事の時などに入居者の好みを把握し、献立に取り入れている。食事の準備などは、その都度興味を示す方に手伝っていただいている。また、入居者と職員は同じテーブルを囲み、楽しくゆっくり食事ができる雰囲気づくりができています。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週3日入浴支援を行っている。入浴を拒否する入居者も、入居者からすすめるられると、スムーズに入浴に応じている。入居者の希望や意向にそった自由な入浴支援が望まれる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	朝の掃除は、ほとんどの入居者が参加し、掃除機担当や拭き掃除担当など、自主的に役割を果たしていただいている。菜園の野菜づくりや食事の準備など日々の暮らしの中で行っていただいている。楽しみごととして、ボランティアの協力を得て日帰り旅行を楽しんでいただいている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	買い物や散歩など、戸外に出かける機会をつくるように努めている。全員での遠出は月に1度程度できるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	居室の出入り口の扉に鍵はかけていない。職員は入居者の行動に注意し、窓も夜間以外は施錠してない。玄関は鍵をかけていないが、入居者の行動がわかるように音楽が鳴るセンサーを設置している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署の協力を得て避難訓練を実施しているが、地域住民の参加・協力を得るまでには至っていない。災害時の備蓄品については併設の介護老人保健施設に準備できている。		運営推進会議において、消防訓練の地域住民の参加・協力が得られるように働きかけが求められる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	毎日、水分摂取量をチェックし、1日1000cc以上を目安に摂取できるように支援している。摂取量の少ない入居者には回数を増やしたり、好みに合うものを提供するなど工夫している。入居者の栄養摂取状況は定期的に栄養士にチェックしていただくなど取り組みが求められる。		入居者の健康状況をふまえた献立になっているかどうか、法人内の栄養士のアドバイスを受けるなど検討してほしい。
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	リビングダイニングの南と西が窓なので、明るく見晴らしが良い。西日はカーテンで調整している。玄関前には季節の花がいつも活けてあり、季節感を感じられるようにしている。リビング前には菜園が設けられ、窓から収穫物の成長を楽しむことができる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は各室ネームプレートにフルネームで表示し、わかるようにしている。ベット以外は入居前に使用していたなじみの物を持ってきていただき、くつろげるように支援している。カーテンはグループホームで準備しているが、見本の中から好みのものを選んでもらい、居心地良く過ごせるように工夫している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			